

編集後記

今回は、「品揃え貧乏」について語りたい。当然、そんな言葉はない。単に、“器用貧乏”をなぞっただけだ。

あそこに行けば、欲しい物、買いたい物は何でも揃う。そんな店舗があれば、便利だし、客の人气も高かろう。だが、こんな想定は、多くの人が集まる大都会、しかも皆が日常的に求める汎用商品に限られるだろう。ひとり一人の客はそれぞれの嗜好で、それぞれの規格の品物を求める。店側がそれらを全て揃えていたのでは、在庫だらけでたまったものではない。経営も成り立たないはずだ。既製服を例にとれば、想定しうる全ての客に対し、求めるデザイン、サイズ、色、柄の品を全て取り揃え、店内に陳列するなんて全くナンセンス、不可能なことだ。

客のオーダーに対し、随時、すばやく対応できるのは、トヨタが採用する“カンバン方式”かもしれないが、これとて、いくつかのパーツの組み合わせを替えているに過ぎない。我々が、日常、ラフに着こなす“Tシャツ”など、SS、S、M、L、XLのサイズがあれば十分、フリーサイズFだけでも我慢できる。

さて、皆さんは、既製の下水道管路材のサイズは何通りあるか、ご存知か。現在の(社)下水道協会規格では、鉄筋コンクリート製の管路材、すな

わち「ヒューム管」でいうと、小は200mmから250、300と50mmピッチで500mmまで7種、そこから1,200mmまで100mmピッチで7種、1,800mmまで150mmピッチで4種、さらに既製管の最大口径である3,000mmまで200mmピッチで6種ある。すべて24種のサイズが用意されている。全国の下水道管渠網の大半が、これら24種の管路材の組み合わせで構築されている。すごい話ではないか。細かい製図や字から大まかなデッサンに使う鉛筆の芯の硬さでも、こんなにありはしない。24種ものサイズ品を市場に送り出すことが、客にとって、メーカーにとって果たして喜ばしいことなのか、どうか。ここは、冷静な吟味が必要ではないか。実際、50mmピッチ、100mmピッチの下水道管路内を上手に使い分けて流れる下水なんて、全国何処の都市にも見当たらないのだ。

ヒューム管の製造には遠心成形方式が採用されるため、管の口径(呼び径)が替われば、型枠から替えなければならない。それでも、各サイズとも相当数を出荷できればペイできる。埋設工事でも、開削手法であれば、管外径の幅は然程影響されず、掘削時の土留の幅を適度に変えれば済む。使用する建設資機材に大きな違いはない。問題は非開削工事である。

現在、推進工事では、基本的に24サイズの推進管に対応するそれぞれの掘進機を揃えている。発注される推進工事ごとに、それ固有の掘進機が現場に投入される。しかし、これだけサイズオーダーが多いと、全てが満遍無く稼働することはあり得ない。稼働率の高いものでも、年間の2/3は倉庫で眠っている。年間1回も出番が来ないものもあるかもしれない。だが、働こうが眠っていようが、掘進機が機械として耐用期限を迎えれば更新対象となり、その経費は掘進機の損料として計上される。それは、かなり割高なものとなっていないか。

仮に、口径サイズの区分を半分、すなわち口径ピッチを今の倍に括ってしまえば、年間の施工延長が同じなら掘進機の稼働率は倍、損料率は半分近くに縮減するはずだ。3倍に括れば、損料は1/3ほどに。そんな単純なことではないだろうが、根本的なコスト縮減になることは確かだ。

近い将来、推進工法を活用し、老朽下水道管渠を非開削で新管に入れ替える「改築推進工法」の時代がやってくる。この再構築期、第2ステージこそ、これまでの「品揃え貧乏」を脱却したいと思うのだが。

〈編集委員長 石川和秀〉



No.60 2007 Jul. 平成19年7月1日発行

編集：「No-Dig Today」編集委員会
編集企画小委員会

発行所：日本非開削技術協会

〒107-0052 東京都港区赤坂1-6-14
赤坂協和ビル3F

TEL.03(3586)5181 FAX.03(3586)5183

発行人：松井大悟

印刷所：株式会社 LSブランニング

● ご案内 ●

◇本誌のご購読について

ご購読をご希望の方は、巻末の振込み用紙で当協会まで直接お申し込み下さい。

○購読料(税込み)

1冊 1,500円(本体1,429円)〒400円

1ヵ年(4冊)6,000円(本体5,716円)〒1,600円

◇発行

年4冊：1・4・7・10月1日発行

◇広告のお申し込みについて

本誌に広告の掲載をご希望の方は、編集室までご連絡下さい。媒体資料等お送り致します。

◇投稿

・技術論文

非開削に関連する技術、製品についての論文を募集しています。

投稿論文は、委員会で選考の上掲載論文には薄謝をお送り致します。

◇情報のご提供について

・No-Dig NEWS ダイジェスト

非開削技術に関連する新技術、新製品、図書の紹介、関連団体の動向や講演会、セミナー・展示会の案内など、情報をお寄せ下さい。